

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」 第5回推進会議の概要について（平成25年度第1回）

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」の第5回推進会議を平成25年7月4日に開催しました。

第5回推進会議には、7名の全委員にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして特定非営利活動法人Mブリッジ理事長の米山 哲司氏にご出席いただきました。

なお、第5回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

川北 輝（特定非営利活動法人津市 NPO
サポートセンター理事長）

小堀 正一（三重県視覚障害者協会会員）

高橋 幸照（水土里ネット立梅用水事務局長）

増田 正人（公益社団法人みえ犯罪被害者
総合支援センター専務理事）

舛本 大輔（国立大学法人三重大学大学院医
学部院生）

宮本 倫明（「美し国おこし・三重」総合プロ
デューサー）

和田 京子（特定非営利活動法人伊賀の伝丸
代表理事）

＜ファシリテーター＞

米山 哲司（特定非営利活動法人Mブリッジ
理事長）



＜推進会議の進行概要＞

会議の大きな進行は次のとおり

開会 10:00

戦略企画部部長あいさつ

1、平成24年度推進会議の振り返り

- ・第4回推進会議の概要
- ・平成24年度推進会議（全体）の状況

2、平成25年版成果レポートマネジメントシートについて

3、今後の推進会議の進め方について

4、協創プロジェクト事業概要について

- ・平成25年度県民力を高める絆づくり協創プロジェクト事業概要

5、意見交換

- ・今後の進め方について（意見交換）

閉会 12:00

（戦略企画部部長あいさつ）

山口和夫戦略企画部長から、今回の会議での目的等について説明いたしました。

（推進会議の振り返り）

ファシリテーターの米山さんから平成24年度に開催した4回の推進会議の概要を説明いただきました。

（平成25年版成果レポートマネジメントシート）

事務局より説明しました。

（今後の推進会議の進め方）

意見交換時に記述

（協創プロジェクト事業概要）

プロジェクトの平成24年度実績及び平成

25年度事業概要を各課から説明しました。

その後、委員からご意見をいただきたい点について関係課から説明し、米山さんの司会により委員間で意見交換を行いました。

(1)平成25年度事業概要を各課から説明 に対して日頃の活動を通じてのご意見 および回答

主な意見

NPO法人を200ぐらい訪問して、どんな意見が多かったのか。

講座の開催で協創という言葉も出ているしコーディネーターの機能も議論されていたので、どの辺をターゲットとしているのか。講座はNPOが対象なのか。

「学生×地域」カフェは、どのような手段で募集を掛けたのか。また、どのような結果になったのか。

昨年度の「障がい者芸術文化祭」の参加者が少ないのが気になった。周知ができていなかったように思う。団体、各個人に対しての周知に問題があったのではないか。

「美し国おこし・三重」のパートナーグループでも、健常者、障がい者を区別せずやっているグループがある。そういうグループの方と連携すれば、もっと良いものができるのではないか。この推進会議の本質に触れると思うが、うまいマッチングで良い協創が生まれるのではないか。

多文化共生課の「みえ災害時多言語支援センター」や、「被害者支援センター」の立ちあげ時に一番困るのは、言葉の問題である。災害と同じような体制を「みえ災害時多言語支援センター」でしていただけるのであれば、何かあった時に連携させていただく

ことができると思うので、あればお願いしたい。

農業の多面的機能を十分に発揮させるという言葉があり、法律も制度も展開されているところであるが、多面的機能はわかるようでわかりにくい。

(ファシリテーター)

昨年度いただいた意見では、「広報の力」・「人材育成」・「場づくり」このあたりが話題として共通項であるのかなと思う。この3つのイメージがある。今いただいたみなさんのコメントを各部局の平成25年度事業で活用いただきたい。

(2)(意見交換)今後の進め方について意見 交換

ファシリテーターより

共通テーマを委員のみなさんで決めていただきたい。「県民力養成」「県民力拡大」「県民力発揮」の3つの中から決めていただいたらどうかと思うがいかがか。視点ごとに事業をまとめていただいているので、非常にわかりやすいと思う。

委員からの主な意見

個々の「県民力養成」の事業を、次の「県民力拡大」に繋げるためにも、協創の新しい「仕組み」の議論を深めた方が良い。また、協創を進めるためには、ワンストップで相談に行けるような「アクティブシチズンセンター(仮称)」の場を確保する必要があるのではないか。

一人ひとりが今の話でどれだけこれに関わるか、意識があるか、興味があるか、この養成という意味で、セミナーであるとか、何かきっかけづくりがいる。それで養成し

ていかないと、いくらシステムを作っても、向こうから関わっていただくことがなければ、なかなか成り立たないと思う。そういう意味での養成も必要かもしれない。養成なくして拡大はできない。先に拡大しても駄目だと思う。

(ファシリテーター)

資料4でまとめて報告もいただいている。全体を何か違う視点のテーマでもこのスタイルは残して置くことにする。

プロセス議論もあるし、予算化する時の議論づけの支柱にもなるから残してもいいと思う。その中の一つを取って議論するのはどうかと思う。自分はどんなスタイルでも構わない。一年間見て思ったのは、ほとんど進んでいないというか、進歩していないというか、みなさんに意見を求められて、各課が対応するだけはだめだと思う。せっかく、重要な会議なのだから、そう思う。できれば、そこを掘り下げて、本質的な議論をしたい。

(ファシリテーター)

我々に求められていることは、先ほどの専門性のある方々の意見を、事業に役立ててもらおうところにある。何か新しいことを構築することの発案があれば芽出しすることもおもしろいかもしれない。今回を含めて3回の推進会議もなかなか悩ましいところである。その中で、方向性を決めるのか、新しいものを創造するのか、併せて検討したい。

我々も地域づくりをやっていて、少しでも応援してくれる仲間が増えればいいなと思うことがあるが、どうお願いしたらよいかわからなくなる。また、障がい者のレベルによってどのようなことができるのか、で

きないのか、頼むことに戸惑うことがある。所得の確保については、協議会ではあじさいの苗木の販売もあるし、伊勢のおがげ横町でも展示がある。障がい者雇用の関係でそういう情報共有があればよいと思う。

情報共有とか、コーディネートとか「仕組み」ができていれば、うまくマッチングできるのではないかと。実働世代として、県庁OBの方など、知識がある方にそのような「アクティブシチズンセンター(仮称)」に勤務いただいてマッチングしていけばいいのではないかと。「美し国おこし・三重」をやっている延長線上にそれがあって、コスト面でも比較的楽に実現できるのではないかと。アクティブシチズンを本気で考えるのであれば、もう少し、住民たちが主体的に、自立して力を発揮できるような、土壌、環境を整えるようになれば、まさに5つの協創推進会議の中で、協創5の推進会議では、そこを議論しなければいけないかと思う。

県民力を「養成」するには、市民活動も、専門性を持つことが必要である。各組織・市民団体は、「専門分野の養成」・「組織の経緯」・「組織の力」でコーディネート機能や場を備えることが大切であり、県があつて、県民があつて、市民団体・協会等があり、そのあいだの組織(中間支援)の人が足りない気がする。

(ファシリテーター)

中間支援を多様にとという意見。「養成」でその中で「仕組み」という話題を盛り込んでいくということかもしれない。

専門性のある、中間の人材が少ないという話だが、障がい者においても、障がい者の方の関わり方、専門性、それぞれのスキル

は必要である。いざ、そのようなことになった時に関わりができないことも起こってくる。専門性のある中間の人材は必要かもしれないが、それも関係してないと、システム自体が動いていけない。

「県民力養成」はリーダーを育てたいのか、コーディネーターを育てたいのか。それとも、サブリーダークラスを育てたいのか、それ以外の方を巻き込みたいのか明確にする必要がある。

(ファシリテーター)

話題が養成というところに集まり始めた。その中で「仕組み」というニュアンスをいただき、そういう話題も必要ではないかと思う。

学生の中でもリーダーだけ頑張っており、あとながらついてこない。結局、脱会してしまうことがあり、学生と地域の間接役みたいなものが必要だと思う。

三重県は地域によって、中間支援組織にはばらつきがある。それを、県として何かするとしても、地域により養成、仕組みの課題が違う。県がどこかの地域とどこかの地域の力を繋いでいく場合、今後は養成の中で考えていくことはできないか。

新しいネットワークといえども、既存の仕組みやネットワークでできると思う知恵が必要だと思う。「美し国おこし・三重」がスタートする時も、NPO室と連携することが大事だと言ってきたが叶わなかった。執行責任を考えると、どこかのセクションのひも付きというところがあっても、現場感覚ではどこが窓口かは関係ないことである。地域が元気になれば良い。新しい発想がいると思う。

(ファシリテーター)

何かを決める。テーマを絞るということで話し合いをしてきた、その中に重要な、有効な話題があった。事務局に戻して、今日の話題をどうしていくかを、考えていただくと思う。

次回、テーマをどうするのか。もしくはどのような方向性でいくのかを事務局に検討していただき、提示いただき、次回の意見交換に繋げていきたい。



平成25年度の開催予定

平成25年度は3回の開催を予定。

次回の意見交換は事務局でテーマを提示。その話題を議論していただく。

(開催スケジュール案)

第2回(10月下旬~11月上旬)

第3回(2月~3月)